

東京マラソンの参加料の仕組みについて

一日にわたり東京の中心部において長時間にわたり主要道路を止め、ランニングイベントを実施するためには、競技運営だけでなく、交通規制計画や警備安全対策、医療救護体制の構築、コース沿道対策などの事前準備に膨大な時間と労力を要します。

東京マラソンの開催にあたっては、その運営に約 19.7 億円の経費（EXPO や関連イベントにかかる経費は除く）（2018 大会実績）を要します。これは、参加ランナー一人当たり換算すると約 54,800 円（2018 大会定員）の費用となり、この費用のうち多くの部分は準備段階で必要となるものです。

経費の内訳は以下のとおりとなり、これらの経費については、開催に向けた 1 年間の準備にかかるものも含め、多くの部分が大会開催直前の段階で、履行や制作済である、もしくは発注や手配済みのものです。

このため多くのマラソン大会では参加規約の中に、大会中止の場合にも参加料を返金しない旨を明記し、ランナーの皆さんに同意をいただいております。東京マラソンにおいても、原則として参加料は返金しないこととしております。

なお、東京マラソン 2020 からは、参加料返金保険に加入し、一定の要件に合致する場合には、参加料を返金できるよう対応しております。

【一人当たりの費用換算】※2018 大会実績

- 競技・大会運営費 16,970 円
ナンバーカード・計測チップ作成、医薬品購入、給食物品購入、道路占用・使用許可申請
手続、更衣施設借用、手荷物運搬、輸送関連車両確保など
- 設営関係費 13,820 円
運営・更衣テント、交通規制資機材など
- 警備・安全対策費 13,360 円
沿道警備員確保、監視カメラ設置、警備資機材レンタルなど
- 広報費 6,860 円
交通規制広報・チラシ、大会開催告知、大会プログラムなど
- エントリー関連経費 3,790 円
エントリーシステム運用、参加案内など